

令和5年度 第3回 理事会議事録

日時：令和6年3月25日（月）19：00～20：30

出席者：田中信次、逢坂珠美、福吉葉子、野中喜久、田上さやか、笹田景子、谷川朋子、手蓑京美、松岡拓也、中島みどり、山口勝利、小山大樹、原田精一、野中裕直、淵辺恭裕、森谷智輝、松本珠美、荻泰裕、広瀬亮介、坂井綾子、岩崎晃史、増永純夫、廣瀬里子、林康子、柿沼廣邦、中山陽平、片山卓也、境一、磯崎将博

欠席（委任状含）：富田文子、竹内保統、西田志保、竹口祥人、田上圭二、江崎有里、山崎卓
(順不同)

<報告事項>

1. 会長報告：日臨技関係 理事会開催 3/23、タスクシフト研修会の受講状況
2. 各部報告
 - ・総務（野中）：日臨技及び他団体等との連絡事項、会員動向等
 - ・広報（富田）：HPの更新および一部リニューアル
 - ・組織（山口）：災害マニュアルの作成
 - ・渉法（廣瀬）：令和6年度賛助会員・広告募集中
 - ・事業（笹田）：県精度管理調査報告書発送、標準化サーベイ：是正報告状況
 - ・学術（小山）：部門長会議、くまもと医学検査の発行、
学術奨励賞の自薦他薦の案内、部門員の募集
 - ・生涯教育（山崎）：生涯教育研修会等の開催・参加登録
 - ・経理（田上）：R6年度予算案
3. 第56回熊本県医学検査学会 担当 県央地区 学会長 富田文子技師（済生会熊本病院）
令和6年6月16日（日） 熊本市民会館 シアーズ夢ホール 大会議室
内容：特別講演、一般演題、ランチョンセミナー
27演題登録済み。座長の協力依頼あり。
4. タスクシフト研修会
これまでに8回開催し、研修会終了者は400名を超えた。徐々に参加申込が鈍っている様子。
R6年度は学生対象のタスク研修会が4～6月に計画されているので、7月以降に開催する予定。
開催状況はホームページで確認していただきたい。
6. その他
 - ・70周年記念講演会、式典、懇親会について
6月15日（土）KKRホテル熊本で開催予定。講師は宮島日臨技会長と田中熊臨技顧問に依頼済み。
式典や懇親会ではコロナウイルスによって延期されていた叙勲および日臨技表彰、県知事表彰の方々もご紹介する予定。

<協議・承認事項>

1. 令和6年度事業計画案（生涯教育研修会臨計画含む）および予算案について
案の通り、承認された。
2. 災害マニュアルについて
組織部より、災害マニュアル（案）が提出された。次回の理事会（4月末または5月開催予定）までに確認し、意見があればメール等で連絡をお願いしたい。県庁医療政策課にも内容を確認しても

らう予定で、日臨技には進捗状況を報告する。また生理研究部門を中心に DVT 研修会を計画してもらいたい。災害マニュアルが完成したらホームページに掲載し、情報伝達の練習（連絡網の確認）を計画したい。

3. 令和5年度表彰推薦委員会報告について

表彰推薦委員会より、学術奨励賞、会長賞および永年職務精励者表彰の選考結果が報告され、承認された。

- 学術奨励賞：日高栞技師（熊本済生会病院）

「超音波検査で胆嚢穿孔が判明し緊急処置を施行できた1例」

- 会長賞：タスクシフト研修会実務委員チーム

2022年から現在まで8回のタスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を開催し、約500名の修了者を輩出した。このチームは講習会実務に加え、積極的にタスクシフト推進事業に取り組み、技術向上と講習会の発展のために貢献し、その成果を評価した。

- 永年職務精励者表彰：日臨技会員として20年以上で1968年生まれ（1月1日～12月31日）の22名

4. その他

● 地区活動について

天草地区で活動費増額が要望された（予算15万円を20万円へ）。これまでの活動実績を考慮した上で承認された。地区で活動する場合には必ず事前申請とし、この場合のみ、生涯教育点数の付与対象とする。

● 熊臨技 HP 公式 LINE の利用について

ホームページ更新のお知らせをメイン情報とした熊臨技公式 LINE 導入の可否について協議し、承認された。災害時の情報収集、安否確認にも活用する予定。

● 令和6年定時総会日程について

県学会（6/16開催）では、演題数の増加と宮島日臨技会長の挨拶によって県学会のタイムスケジュールが昨年以上にタイトとなる。別会場の確保も難しく、2会場のハイブリッドとなると予算オーバーとなることから、総会を別日に設定してほしい旨の提案があった。総務部より、前日（6/15）の70周年記念式典前に設定する案が提出され、協議の結果、承認された。

● 学術研究部門運営規定 共催・協賛・後援に関する内規について

学術研究部門運営規定の文言修正と共催・協賛・後援に関する内規の策定案が提出された。次回の理事会までに内容を確認し、継続審議となった。特に、共催についてはプロモーションガイドラインに抵触しないように気をつける必要があり、部門単位での研修会では認めない。

● 精度管理調査について

今年度の出題で低正解率の問題があり、出題基準の有無について質問があった。笹田理事が現在は出題基準がなく、部門長任せの面もあるので今後、作成して問題適否のチェック体制も検討したいと回答した。また、評価基準も明確にすることになった。

- 災害マニュアルでは常務理事だけでなく、地区理事も含めて担当施設を割り振るが、それ以外の業務も理事全体で分担してはどうかと提案があり、次の理事会組織では各部に副部長を配置したい。

以上